



# はまなす季刊

医療法人はまなすHP ▶▶▶ <http://www.hamanasugeka.com>

医療法人  
はまなす 篠路はまなすクリニック

〒002-8024 札幌市北区篠路4条9丁目12番45号  
TEL (011)776-3030・FAX (011)776-3001

医療法人  
はまなす はまなす医院

〒061-3284 石狩市花畔4条1丁目141番地1  
TEL (0133)64-6622・FAX (0133)64-6555

## 『クマゲラ』

国の天然記念物で、日本で最も大きなキツツキです。2022年3月、石狩市生振地区にて撮影しました。

工藤 立史



## 巻頭言

## 真冬の災害

理事長 工藤 岳秋

新年を祝うはずの元日に、能登半島を大地震が襲いました。被災地の方々に心からお見舞い申し上げます。

石川県内では6カ所の病院で血液透析を行えなくなり、300名以上の患者さんが災害地以外の施設へと転医を余儀なくされました。普段は1〜2日おきに治療が行われますが、地割れや土砂崩れによる通行止めなどの影響で、全員が受け入れ先に搬送されるまで3日以上かかったとのこと。

北海道に住む私たちにとって、真冬の災害は人ごとではありません。特に石狩・篠路のエリアは雪が深く、今回の能登地方とは違った形の道路事情の悪さが懸念されます。院内の災害対策とともに、安全に透析が行える病院に患者さんを送り出す段取りも考えておく必要があることを再認識しました。

もとより天災に対して、万全に備えることは困難ではありますが、被災時に役立つような透析データのクラウドによる外部保存などの準備が整えられないものか、と及ばずながら思いを巡らしています。

# 軍 民 転 換

## ～ テクノロジーの進歩と応用 ～

理事長 工藤 岳秋

科学技術は日進月歩であり、学問や産業などとともに、私たちの生活にも恩恵をもたらしている。日一日と実感することはあまり無いのだが、自分が生まれてからの半世紀余りを振り返ってみると、日常の風景が思いのほか変化していることに驚かされる。

例えば電話。子供の頃は一家に1台が標準で、しかもダイヤル式であった。その後プッシュホンが普及し、受話器はコードレスに。21世紀は一人1台、携帯電話を所有する時代だ。インターネットの端末であるスマートフォンには音声認識機能が搭載されており、「近所のラーメン屋さんを探して」と話しかけると、すぐリストアップしてくれる。

清掃にはロボット掃除機が大活躍。家具を避けて床を這い回り、ゴミを吸い取る。玄関などの段差で転落することもない。外出中に働かせて、時間を有効利用している方も少なくないだろう。

カーナビゲーションシステムは最近、たいていの乗用車に装備されている。人工衛星を用いたGPS（Global Positioning System＝全地球測位システム）のおかげで位置が常に把握でき、住所さえ間違わなければ、道に迷うということが無くなった。

ドローンも普及しつつある。子供用の玩具はラジコンのヘリコプターを縮小したようなものだが、業務用はカメラを搭載して空撮をしたり、農薬の散布に使われたりしている。タクシー代わりとなる「空飛ぶクルマ」の開発も進んでいるという。

これらは全て「軍民転換」、すなわち軍事から民生に転用されたものである。携帯電話は無線機。インターネットは指揮統制システム。音声認識機能は兵士をサポートする対話型AI（Artificial Intelligence＝人工知能）。掃除機は地雷の除去装置。GPSは軍事用ナビゲーション。ドローンは無人航空機そのものだ。

医療機器にも軍事技術が応用されている。

消化器内科のカプセル内視鏡は、直径11mm、長さ26mmで、胃腸の中を蠕動(ぜんどう)運動に乗って進み、自動的に静止画を撮影し、データを外部に送信する。「カメラ付きミサイルのようなものを縮小して飲み込めば消化管の内側を画像化できるのでは」という発想から生まれた。

外科の手術支援ロボットでは、執刀医が、数メートル離れた操縦席から患者側ユニットのアームをコントロールする。負傷兵に対して遠隔操作で手術を行うために開発されたシステムである。

軍民転換のおかげで、これからも日々の暮らしは便利になっていくに違いない。だが、ウクライナや中東の戦争で、ドローンが爆撃に用いられている様子を目の当たりにすると、なんとも辛い気持ちになる。テクノロジーを平和利用にとどめるべく、私たち人類こそが、もっと進歩すべきではなかるうか。



2023年  
12月9日

## 石狩市立花川小学校

# 開校150周年記念集会に参加しました！



副理事長 工藤 立史

この度花川小学校の150周年記念集会に参加してきました。

花川小学校は明治6年に「花畔教育所」として開設されたのが前身で、石狩管内（札幌市を除く）最古の小学校です。はまなす医院として寄付金を納入したため招待していただいた次第ですが、私は学校医でもあり毎年子供たちの健診をしています。集会には児童全員と教職員のほか、寄付金を納めた団体の関係者、同窓会役員、PTA会長、卒業生の一部など20数名の出席がありました。

在校生の作製によるスライドショーがあって、学校の沿革から最近の運動会、学習発表会の様子など150年分の歴史を知ることができました。明治から昭和初期にかけて石狩川が頻繁に氾濫し校舎の建て替えを余儀なくされ、何度か所在地が変わったのちに現在地に落ち着いたとのことなど改めて歴史を感じた次第です。

集会が終わって子供たちは授業に戻り、我々来賓は校内を案内してもらいました。一人一人がノートパソコンで授業を受けているクラスもあって我々の時代との移り変わりを感じました。図書室では司書さんから利用状況について説明を受けました。最近ではインターネットで調べものをする事が多くなり図書離れが進んでいると伺いました。

現校舎は築40年を経ており一緒に見学に回ったOBの懐かしそうな様子が印象的でした。

校内の見学に引き続き、近くの小料理屋さんで参加者の懇親会が開かれました。校長先生と私を除く参加者のほとんどが本校を卒業しており、まるで同窓会の雰囲気でした。同席した人の中には、はまなす医院にかかったことがあるという方もいて地域医療を肌で感じる事ができました。

これからも伝統ある花川小学校が引き続き発展してほしいものです。私も及ばずながら学校医として貢献していきたいと考えています。



パソコンを使用している授業風景







2023年12月16日、「ホテルニューオータニイン札幌」で4年ぶりの忘年会が行われました。来賓を含め96名が参加。副理事長による「明日に架ける橋」、ショパン「幻想即興曲」、2曲のピアノ演奏もあり彩りを添えました。石狩と篠路のスタッフが交流する中で、会話が弾み絶え間ない笑い声とともに宴会は大盛會に終わりました。

(坂本)





# 能登半島地震から教わること 防災対策を再考する



副理事長 工藤 立史

2024年、年明けとともに発生した能登半島地震では、当院の透析患者Mさんの息子さん（富山県在住）が被害に遭いました。Mさんによると、地震発生時の状況を息子さんが以下のように語ってくれたそうです。

地震発生時は自宅にいた。激しい揺れで戸棚が倒れてとんできた。窓ガラスが割れて飛び散り、恐怖を感じた。津波警報が発令され、自宅が海拔0mなので急いで高台に避難した。津波がおさまるのを待って夜遅くに自宅へ帰ることができた。家に津波は来なかったが、揺れでドアが開かなくなったため、車で一夜を明かした。

Mさん自身も2022年4月に石狩へ転居するまで34年間に亘って富山県に住んでいました。現在車いす生活であり、もし富山で被災していたら迅速に避難できなかった可能性もあり、ここへ引っ越しをして命拾いをした思いだと話されています。

大きな地震では、電気、水道、ガスといったライフラインが途絶え、道路は陥没、路肩が崩れるなどして道路網が寸断されます。電話が通じなくなることも珍しくありません。避難所へとりあえずたどりついて一命を取り留めても、避難生活が長引くにつれ、災害関連死のリスクが高まります。とりわけ今回のように季節が冬だと、凍死の恐れもできます。

被災者の中でも透析患者さんは「災害弱者」です。日本透析医会からの情報によると、石川県では地震直後に360人もの患者さんが透析を受けられなくなりました。近隣の県で透析患者さんの受け入れを申し出ている施設にとっては連絡手段が限られ、被災した患者さんがどこにいるか消息をつかめず、道路網が寸断されていて移動も困難になっています。

当地で同レベルの災害が起きた場合、透析不能となれば他院へ依頼せざるをえなくなります。しかし連絡手段が途絶え、車も走れない状況では患者さんの状況を把握できず他院へ紹介することもできません。患者さん自身が他施設へ直接行って透析を受けるケースも想定されます。それに備えて透析情報が記載されたカードを所持していただいている施設もあると聞きます。頻繁に変更される透析条件をリアルタイムで更新するのは容易ではなく、当院でも何等かの対策を考えていかなければならないのですが、どこから手をつけるべきか悩んでいます。

## 雪の中のオルフェ

2024年1月16日は大雪に見舞われた。仕事に出かけようと玄関を出ると雪はひざ下まで達している。通りにはま新しい車の轍が2本、溝になって続くばかりで人の足跡はない。右手にステッキを構え左側の溝をたどって歩き始めたが歩きづらいつとこの上ない。

左前方の丁字路を北に向けて曲がると医院の建物が正面に見えてくる。夏道なら5分とかからない近間である。だが昨年来私は足腰に障害を抱えていて最近になってやっとともに歩けるようになったところである。全身が緊張の塊だった。

全神経を足元に集中してステッキを頼りに歩を進めていたとき、ふと後ろから誰かが歩いてくることに気が付いた。10mほど離れてフードを目深にかぶり黒づくめのロングコーストの人物が付かず離れずついてくる。

曇り空の下で新雪に覆われた世界は不気味なものだ。陰影は消え去り道の凹凸も不確かな幽玄の世界である。後ろにいるのは雪女かはたまた亡霊か？このときなぜかギリシア神話のオルフェの物語が頭に浮かん

できた。

「オルフェは聞くものすべてを魅了してやまない豎琴の名手だった。そんな彼を不幸が見舞う。ある日のこと妻のエウリデーチエが毒蛇にかまれて死んでしまったのだ。悲しみの果てに彼は妻を取り戻すべく冥界におもむく。

死者と生者を分けるスティクス川の渡し守も地獄の番犬ケルベロスも彼の弾く豎琴の調べに涙を流して聞き入っている。冥界の王ハデスも王妃ペルセポネーもその調べにうたれて涙しエウリデーチエを送り出すことを許可するのである。ただし条件を付けた。それは、冥界から抜け出すまでの間に妻の姿を見てはならぬ、というものであった。

妻を後ろに従えて歩き始め冥界を脱するまであと少しというところまで来たときオルフェは誘惑に負けてしまう。一目見たさに後ろを振り向いたそのとたん妻は消え去り永遠の別れとなってしまった。」

私も後ろを歩く人物をたしかめたいと思った。だが、立ち止まって振り向くのも

失礼である。まさか振り向いたとたんに消え去りはしないだろうが、そんな幻想にかられるような雪深いモノトーンの光景だった。しかしやはり後ろが気になる。

意を決して振り返ってみたところ追跡者は私の家内だった。私のおぼつかない足取りを心配してあとをつけてきたのである。行き倒れになつてはた迷惑な話だと思つたに違いない。神話の世界は瞬時に現世へ戻ってしまった。

ともあれ難儀しながらもはまなす医院にたどり着くことができた。傍らには立ち往生した軽自動車が道をふさいでいる。大雪の朝はイロイロなことがあるものだ。

ニュースではJRが何本も運休止高速道路は閉鎖されている。そんな中を「はまなす」の送迎車は次々と到着してきた。雪に足を取られて遅れてきた患者もいたようだが、スタッフの働きによってこの日も透析医療は順調であった。だが冬も半ばを迎えたばかりである。まだ緊張の日が訪れるに違いない。引き続き足腰を鍛えて気を引き締めていこうと思う。



## この度、庶務係の船水敏雄さんが退職されました。

船水さんは奥様が当院で透析をされていた縁から勤めるようになったとお聞きしました。16年間に亘ってご活躍になりました。

出勤する私が毎回最初に会う職員さんで、いつも元気におはようと声をかけてくれました。年齢を感じさせず、オレンジ色のジャンパーがトレードマーク。朝早くから働いて冬には「気を付けて歩きなさいよ」と声をかけてくれ、雪かきをしてくれました。水道管が詰まったときなど「困ったときの船水さん」と頼りになる存在でした。バラの手入れもお手の物、職員も患者さんもきれいなバラに癒されました。

やめてしまった今、困ることが多く、いかに船水さん頼みだったのかを痛感します。残念で寂しいですけど仕方ないですね…お体大切にしてくださいね。

(山田)



## 祝 永年勤続表彰

はまなす医院 病棟看護師主任  
高村憩さんが  
勤続20年で北海道医師会より  
表彰されました。



## 新入職員紹介



はまなす医院  
庶務

藤井 貴敏さん



篠路はまなすクリニック  
厨房調理員

沢田 明紀さん

### 編集後記

コロナを境にアウトドアからすっかりインドアとなり、インターネット上でやるゲームに夢中になっている。ゲーム内で親しくしている一人との会話で実は近くに住んでおり年齢も同い年である事を知りどうせなら会ってみようかとなった。実際に会ってみると自分がネット上での会話で想像していた性格通りで同じ趣味で知り合ったのもあり、社会人になってこんな気が合う人いるのか?というほど話が合い今では温泉に行く仲間となった。今時の若者の様な特別な出会いを経験できて若返った気分になっている。

(H・N)